

インターバンクの声（2016年8月23日）

先週末と週初には、目立った米経済指標の発表がなかったものの、ニューヨーク連銀のダドリー総裁とアトランタ地区連銀のロックハート総裁に続き、米連邦準備理事会（FRB）のフィッシャー副議長からもタカ派的な発言があった。しかし、ドルは思ったほど上昇しない。むしろ昨晚のニューヨーク市場では、ユーロ、英ポンド、豪ドルなどが小幅ながら対ドルで強含んでいる。やはり、いくら節目となる連邦公開市場委員会（FOMC）前に複数の委員会メンバーがいくらタカ派的な発言をしたところで、過去にも委員会が異なる決定をしたこともあり、市場も素直に反応するわけには行かないのだろう。特に今回は FOMC まで日数がある上に、26日にはイエレン議長のジャクソンホールでの講演も控えている。それでも FOMC と同日開催の日銀金融政策決定会合で追加緩和が実施される可能性が高まっているとあれば、もう少し円売りに傾いても良さそうなものだが、昨日の東京時間では100円90銭台までが精一杯だったのだろう。イエレン議長の発言や9月2日の米雇用統計結果を見るまでは、やはり円高基調が残ったままになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。